

# 令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

特定非営利活動法人 久米の家

## 1 事業の成果

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、介護保険法に基づく事業活動を従来通り継続していくための感染予防対策に追われた1年でした。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を申請し、衛生用品等の感染対策に関する物品や備品の購入が出来、効果的な感染予防対策に繋がりました。

また、コロナ禍で急速に介護現場でもICT化が進み、介護記録の電子化・面会、研修、会議のオンライン化を2つの補助金を活用し導入しました。オンライン面会は、ご利用者、ご家族の新たなつながりの形として実証されました。介護記録の電子化は、2021年4月から開始となり、記録時間の削減・業務の効率化・情報共有の迅速化を目指します。経営面では、認知症対応型共同生活介護、共用型認知症通所介護は、定員を満たす事が出来ましたが、平均介護度が昨年にくらべ軽度者が多くなり利益は伸び悩みました。また、小規模多機能型居宅介護は、コロナとは関係なく登録者の減少、平均介護度の低迷が収益悪化に影響をきました。次年度は「登録率」と「平均介護度」に力を入れ経営状態の改善に繋げて行きます。防災の面では、地域の「カナツ技建工業株式会社」と“一時避難場所に関する協定書”を結び、災害時における施設ご利用者の安全かつ迅速な避難行動に備えることが出来ました。地域の公民館や地域住民の方とも協力し防災面を強化して行きます。

研修会・講演会等の開催は、感染予防の観点から規模や回数、人数を縮小し支援金を活用し実施しました。

法人としては、しまね社会貢献基金より活動支援金で地域交流事業や地域支援車両整備事業で車両が整備出来ましたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、地域交流の回数を軽減したために思うように活用の場が限られてしまいました。

まだまだ新型コロナウイルスの脅威は続いており、引き続き予防策を講じて行きます。

## 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動法人に係る事業

## (2) その他事業

なし